



大正四書三古書國語屏出 興水公
大正四書三古書國語卷をも載結多

大正四書三古書國語屏出 興水公
子原内々書水もえし 大正四書三古書
大正四書三古書國語屏出 興水公

二十四孝序

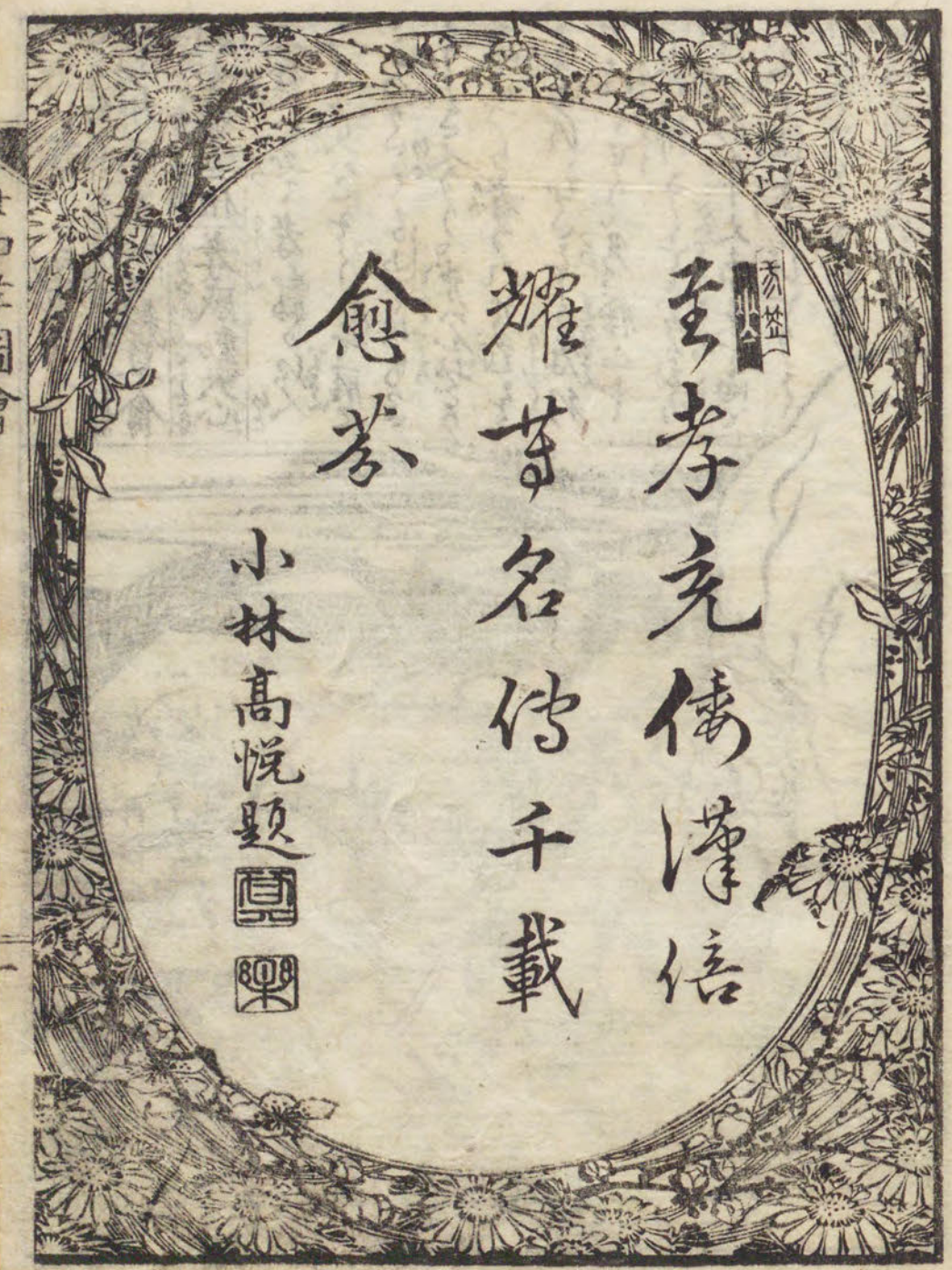
父母子とせし 鞠拊長育の恩徳厚く
人をもて報人々欲とれども 昊天極り
明く勞して竭べうらざるれうらかり 義
に居て世の孝子と画にる児童乃
玩弄不備へ 将孝と教るまうけ
おねえと月ゆか年婦のうらまへ
さまやうとるうらうら 様木もかましく

なりし代にび繪代に我戴斗
 ぬのもふまゝで今とてこの情
 とうはもいそ軍力の自在なるや
 実ふもいそ人々もえれり
 まはるも學藝くもさるる世乃
 幸なりん

江陵山人誌

文化戊寅

きね月



孝先傳信

耀名傳千載

愈芳

小林高悦題

○大舜

隊々耕春象 紛々彩草禽
嗣堯登宝位 孝感動天心
大舜ひいて孝なぬ人
うり、父をこそとて腹を
ころくふくふて母もさ
まへる人なり。米をばら
てつづら者なれを
とめぬをさう孝な
とてくせり。孝な
つた耕うてまゐる
孝な人ト大舜東て田
を名一諸をといひり
細のうとくさる
耕作のうとけと



る。抑る。時の天子と
堯王と中つた好
女央とて二人の娘をま
る。堯王舜の孝なり世
まれ。のときこたひ
つた。の娘をささ
備へ舜をむて天下とゆ
づり玉とて作られたる。土
民の子ゆて天にうへ
中と舜一玉とて堯王に
中と玉とて舜王とて
やふた天下と納めたる。そ
ゆへ孝心のふたれぬとて
まのふたれぬとて
ふたれぬとて



○漢文帝

仁孝臨天下 魏冠百王

漢廷事賢母 湯葉必親嘗

漢の文帝は高祖の御子

なり御初名は恒と申す

母の薄太后なり

まじく、母の食事を

まじらでる時、先づ

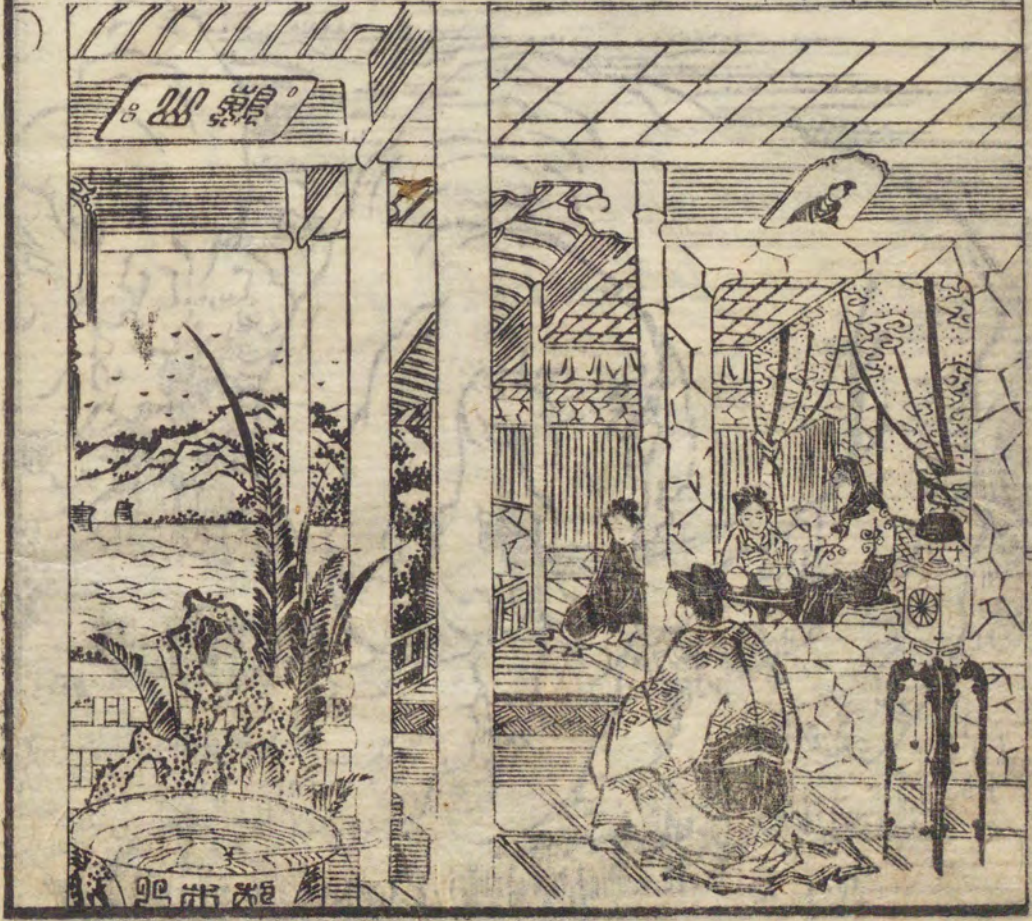
くさき、ゆめ、試み

御身もまじく、これ

見けてはみづの孝なり

く、まじく、陳

平用勅をいへる智勇



の陛下より、まじく

王位におまじりせり

まじく、存けの乃上人

より、下萬民と人々の

事、まじきことなり

まじく、あまの心とは

る、此者、まじき事なり

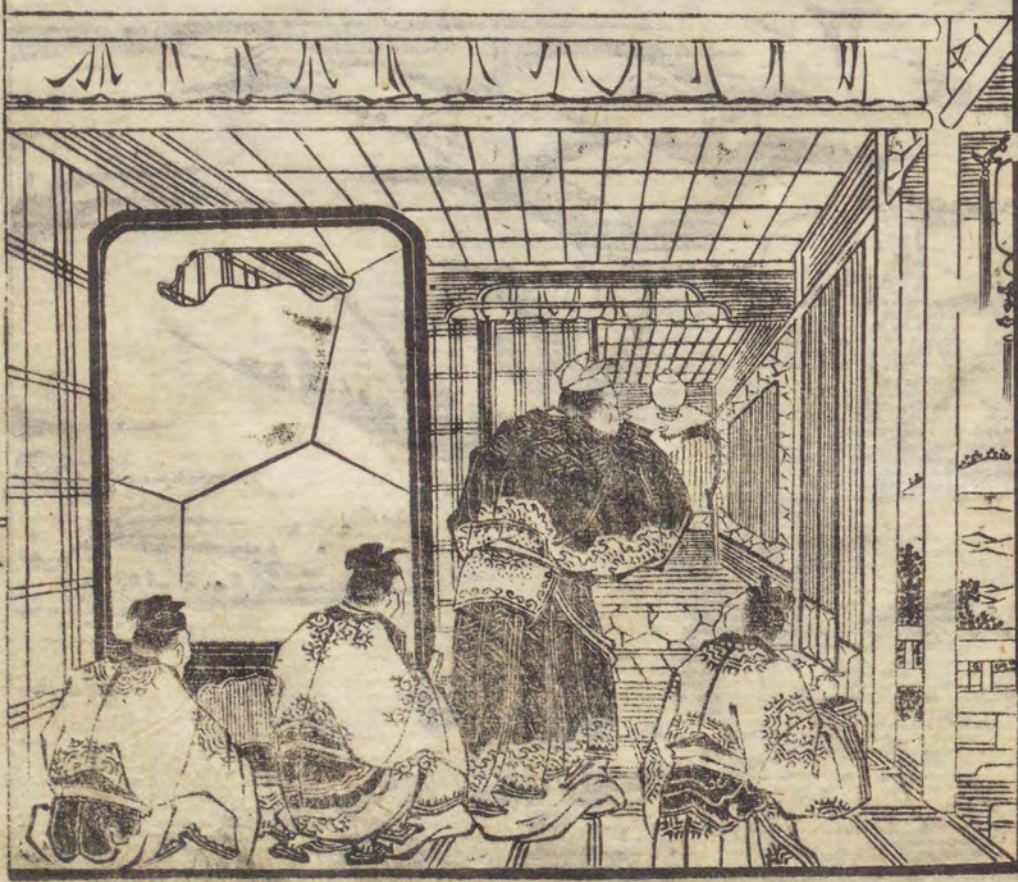
まじく、あまの心とは

る、此者、まじき事なり

まじく、あまの心とは

る、此者、まじき事なり

まじく、あまの心とは



子血 宗

泪滴朔風寒 蕭々竹枝竿
 須更春竿出 天意報平安
 孟宗といふけちくー
 父小母くもむるの母
 やりなひたり。母い
 年をたふふやうの
 食草の味もたうり
 つらきこの竹のこ
 るける冬おるゆり
 順なるふんやん
 おしるふんやん
 きく今殿冬のゆ
 くるて竿あふ
 おりるびといふも



母の申すい
 あいふもあらざれば又
 来るの竿の時
 まやうはえつる
 母の乃ど
 と重いまけ竹林
 天ふいむる
 ぎるるの竿
 出る。大お娘
 母おたてま
 其ま病て
 久しうた
 品ふか
 世ふつ
 竿今め

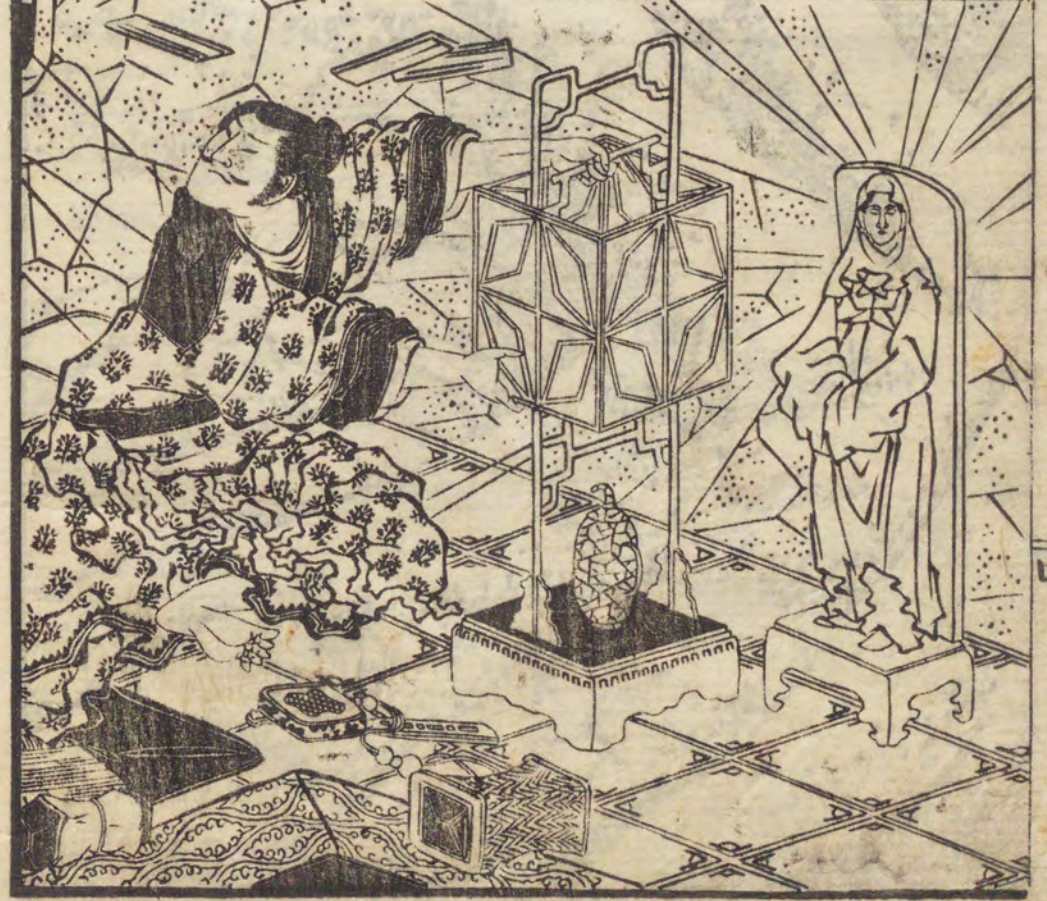


下 蘭

刻木為父母形容在日新

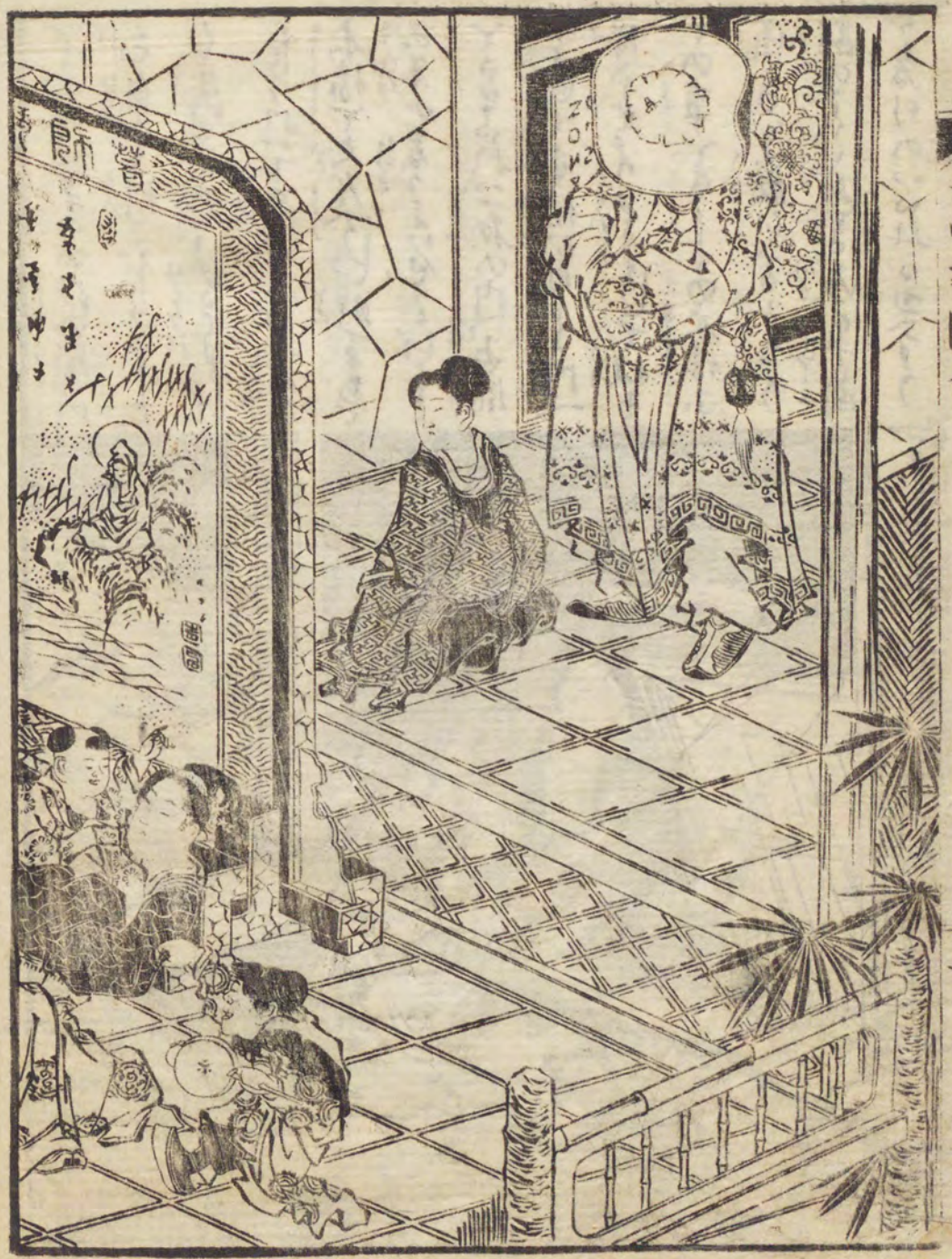
寄言諸子姪聞早孝其親

下蘭は内内の聖王なり
つゝ市の人あり年十五
て母ふかれ長きことれ
とわかれしものの形
木像ふはらりける人
仕ててせり下蘭がま
る夜のゆるふつじて
木像の面と火きてこが
りふかこのこととれ
うかて腰血ふれ二月



て過ぬれまの涙の髪
毛自く刺こしらへる
くあう大に殺して
これ下蘭もふじ人
木像と大にけりて
三年の居うよせま
とせられぬ内内風
の直て木像へ自く内
帰るよりそよけて
かの事をもこの木像
気きと観いりたり
其のくはぎあも下
が孝りのいれるあ





関子騫 関氏有賢良何曾怨晚娘尊前留母在三子免風霜

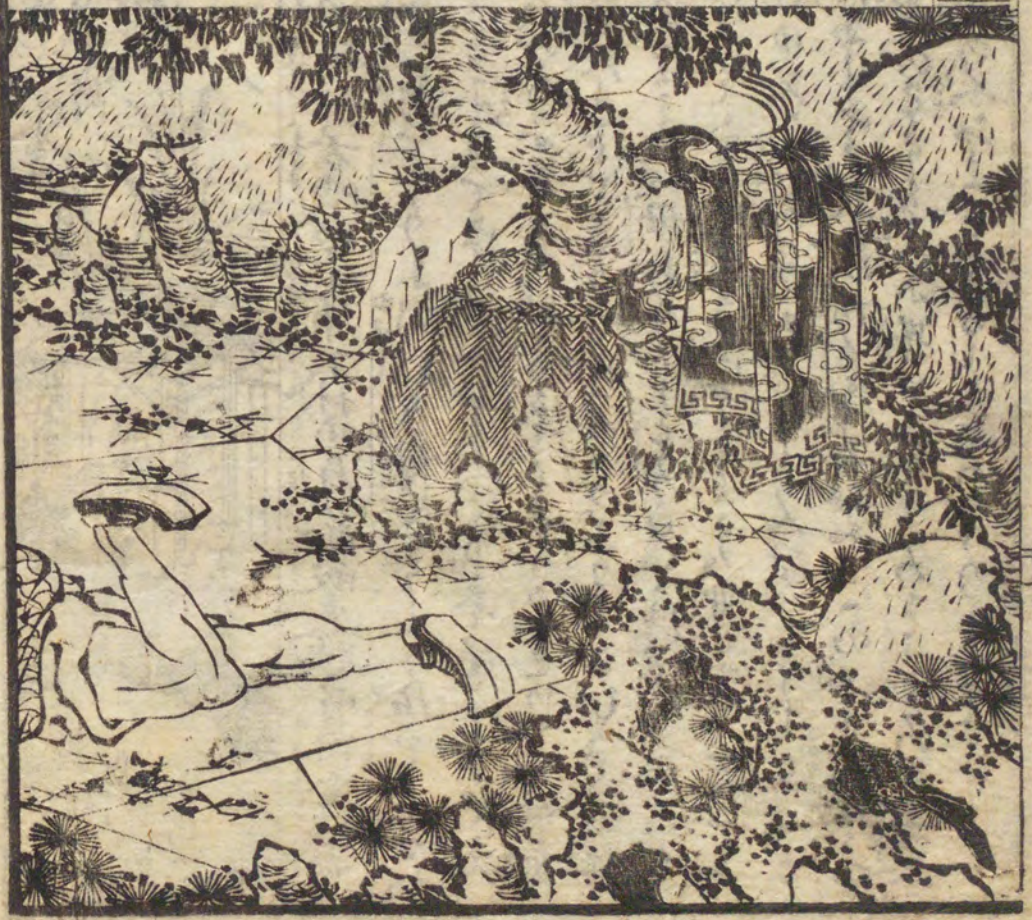
関子騫といはるゝて母ふもれ。又後の事といふてふゝのふも
 てり。彼つまが子とふくをてす子とふく。家なり。り「カ
 秘」とりて着るものふきせたり。父とれいふふへう縁るてん
 大いふる後のつまば去らんと志たれば子騫がいく今これと
 るりてふとれは三人の子さむむる座。まうどこれむる家
 とてふ人ぬも二人の子りてふへとて父とてふめたれば後母そのせ
 ぬき孝心とて後子とてふてふてふてふてふてふてふてふてふ
 たり唯人の長悪は自りの心ぬとて古人のいひやれもとりとて思ひ付

○ 王 祥

繼母在人間 王祥天下無

至今河水上 一卧冰摸

王祥のいけるして母と
しう王父後妻と求む
其名と朱氏といひ侍
母のくせして父子の中と
あふふ言て王祥と
父ふ悪し侍れども恨
とせけていよく孝を
しうに繼母もよく仕
けるかうの人なりしゆ
実の母のきこめ

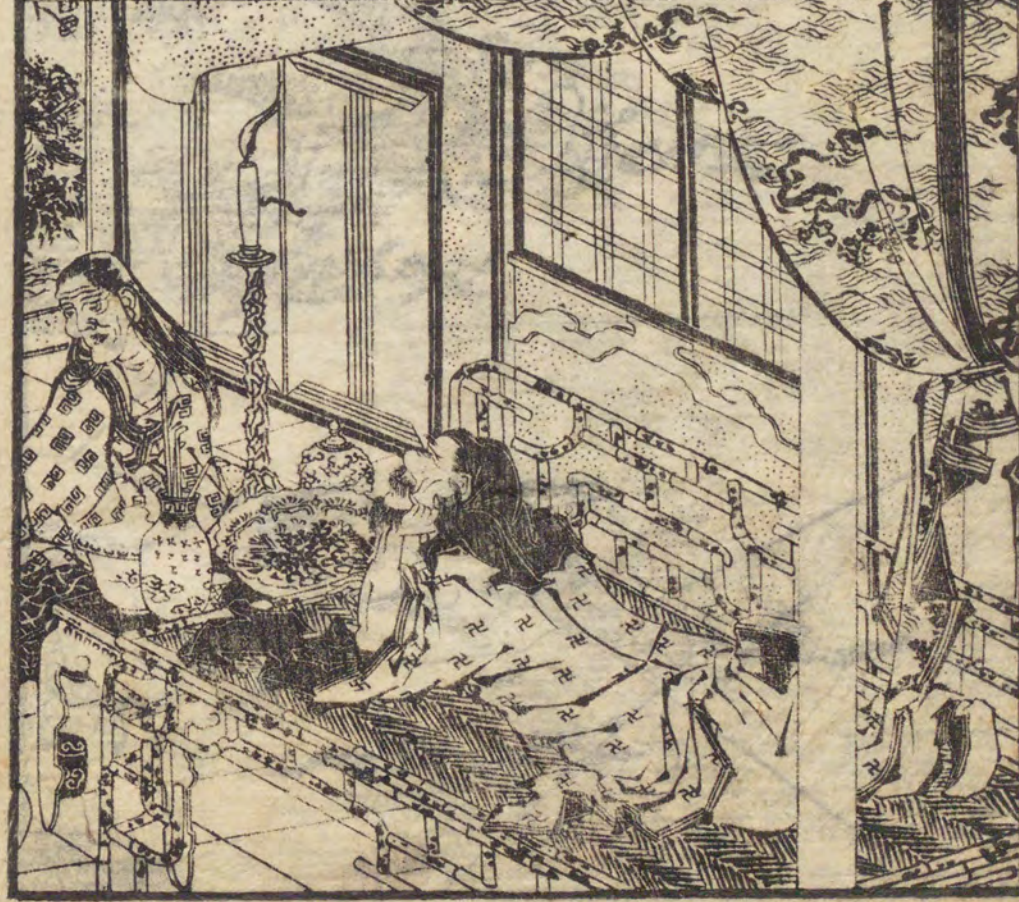


孝にけし生魚とて
おといたる程小鯉を
とふ所の川へわにけ
されども嚴冬のそよ
うは氷とちて魚と
こらといふせんとけり
名とぬきて赤とらに
あり氷の上ふ魚と
ゆとぬけきかほと
まにけりて氷あり
とけて魚二とと踊り
取て母に奉るに
玉て氷とれば人のふ
るけりやなり



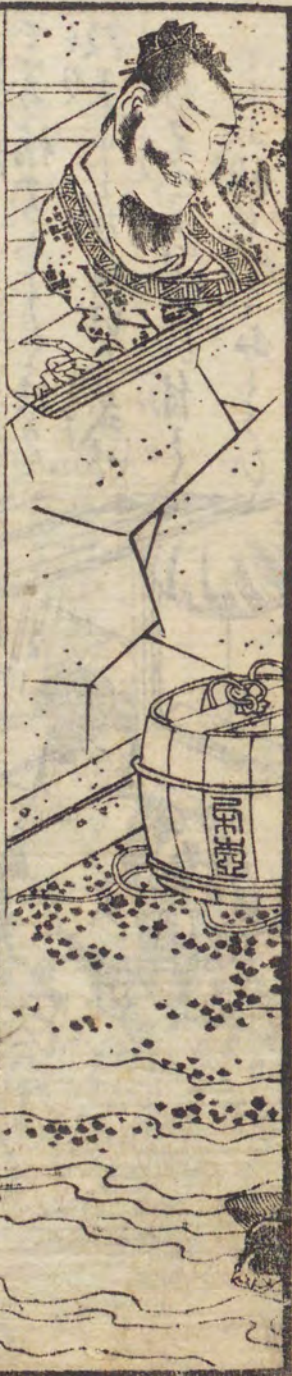
○老來子

戲舞學嬌癡 春風動袿衣
雙親開口笑 喜色滿庭闈
老來子年七十余 余未幾
あやうの親とそらなけ
とほくおふつじき衣
服とすし小唄のどく
はなれ舞あそび二親に
給ふとてまごとはまき
こけいけるねのどく
うもさめきさかあひん
盤の白髪と黒髪おし
る故人そのころとづね



くれ銭七十金余ぬれば
年よりてさちうれう
けうさる故あがるわ
さまと親の足あでま
子の年よりさるとさ
おほく思ひむんとて
も又親のちも年あ
とあさるさうとさ
城あがるさあさ
さるさうはあさ
孝心いふ人々朝の
とほくさうとさ
可にて心にけさ
人や実ふ孝のまう





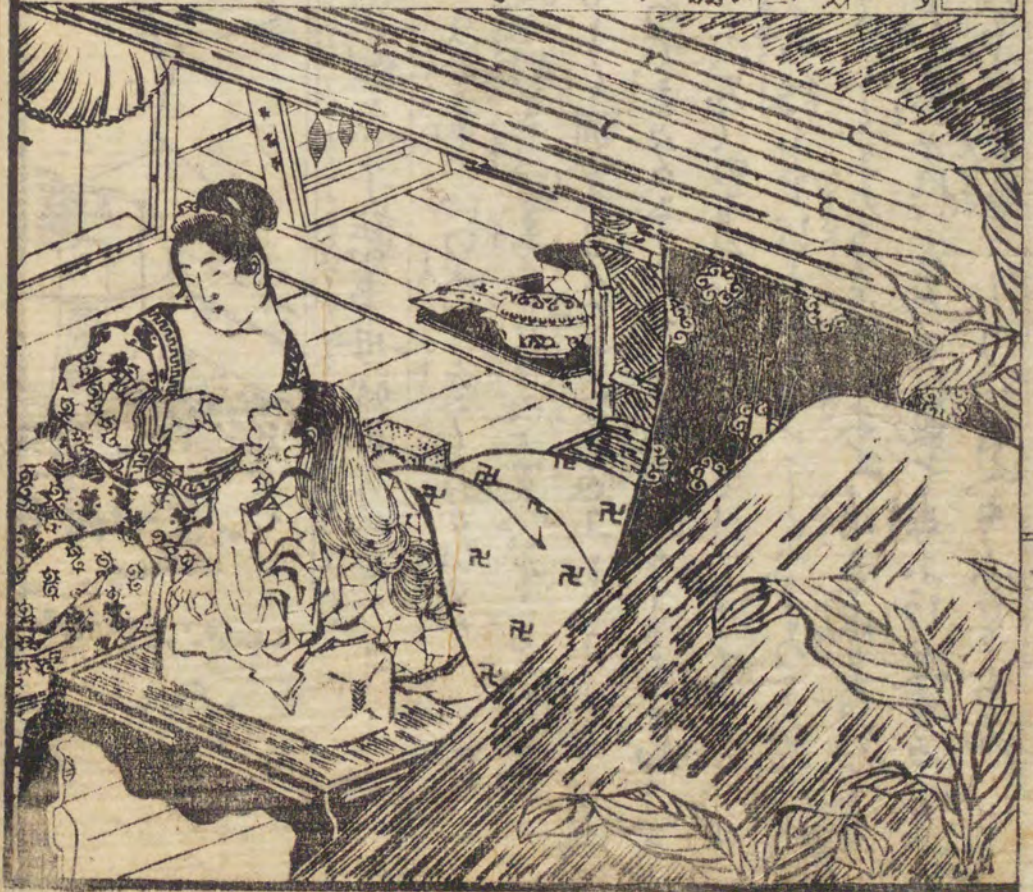
○姜詩 舍側甘泉出 朝双鯉魚子 鮎事母 婦更孝於姑

姜詩と母孝行する人なり母事にはの水と茗をかりい又ハ
 生魚のみまけて近く思ふが事あり言付六七里をてゐる江に
 水とらほぬ魚のみまするもよく調へ茶をさる或時風ぬあつて事
 りとるべりうを姜詩いつて去るこれでも姜詩とありもうゝる
 らくねけよりあつとあつてのふれと茶をさるてけくして孝事ハ
 母とのんじとよみて姜詩あつてびとびとでいふやうにいふく
 母と大でいふやうが家のうへにふたをのこし水と茗をかりい
 うは二尾三尾づ毎日やり出さればよろこび取て母おろさるや
 あり主婦の孝心とて天幕よりりてあつたらん

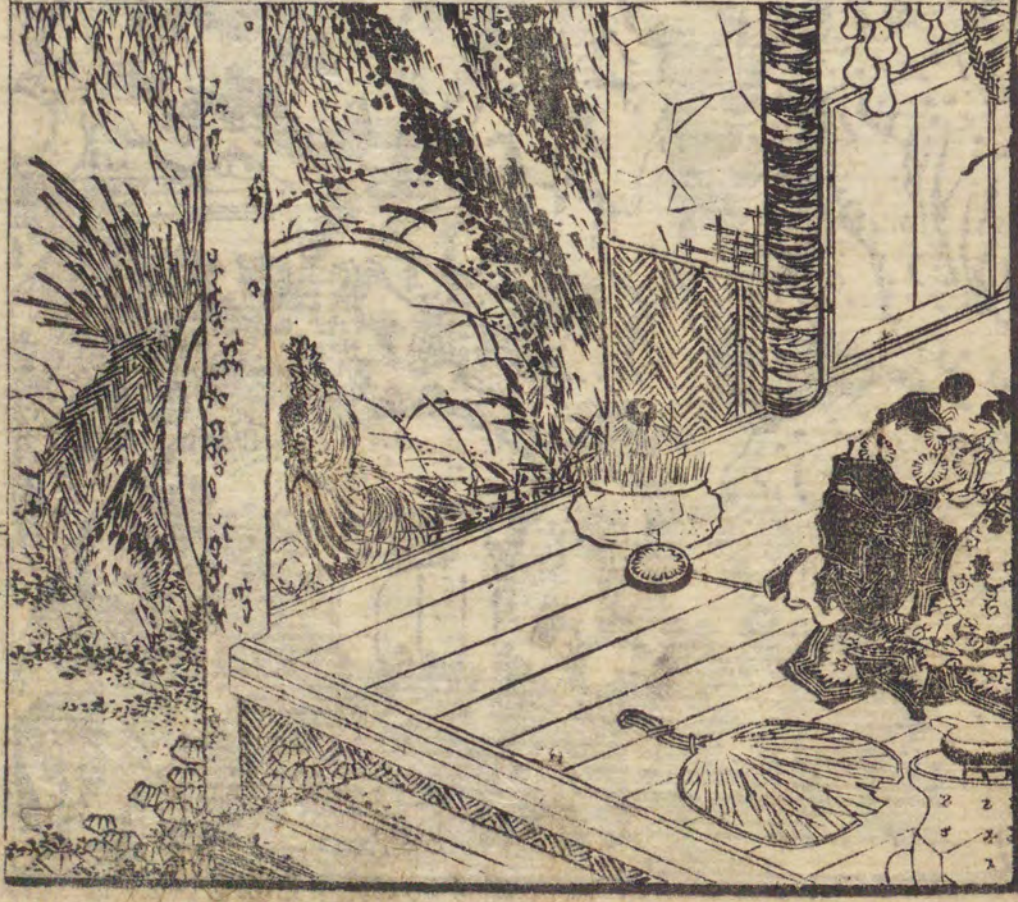
○唐夫人

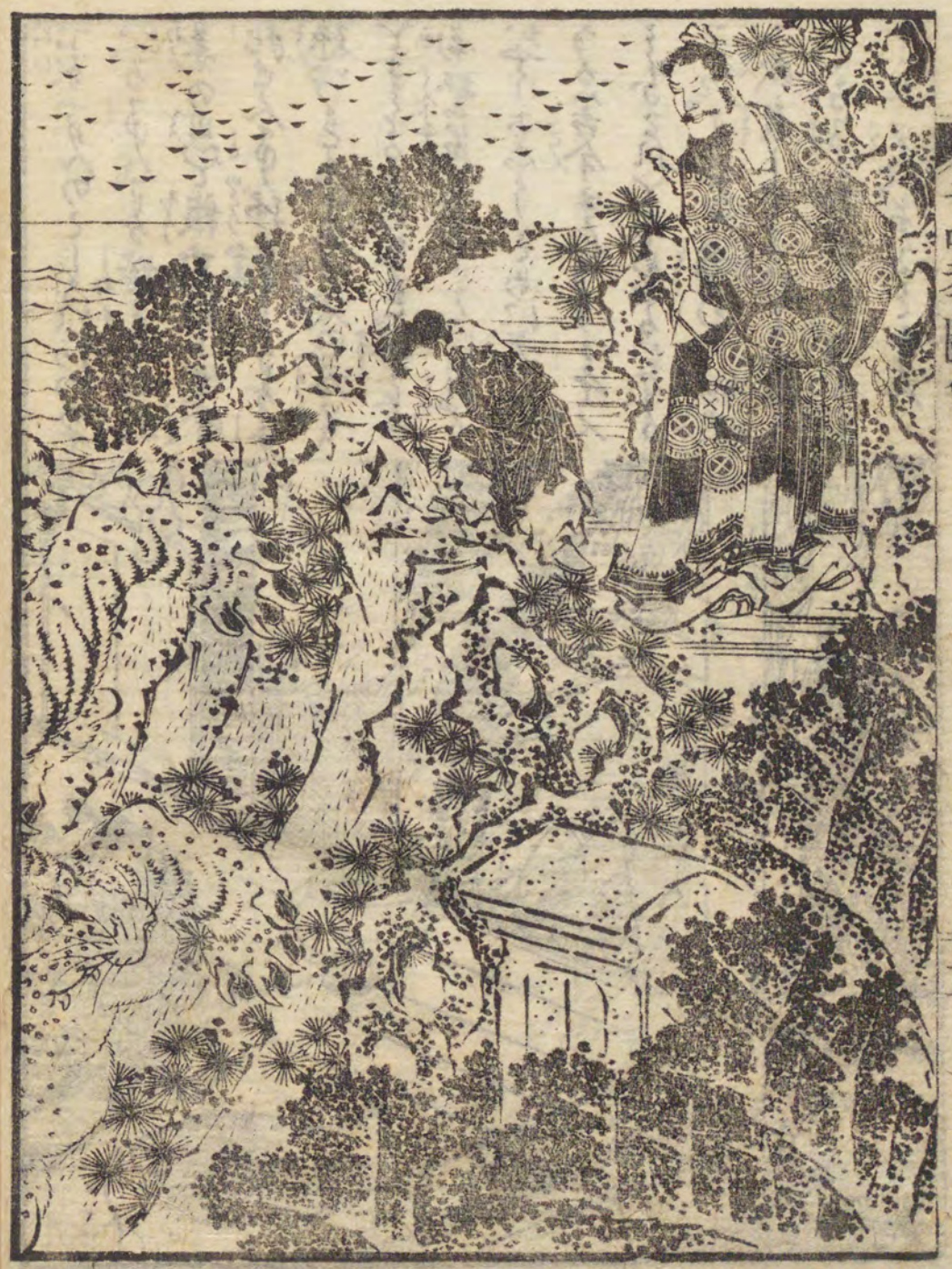
孝敬崔家婦乳姑晨晡
此恩无以報願得子孫如

唐の夫人まゝうとめ長孫
夫人年ふけて甚もてく
ぬけやうとろづ食を以
て乳汁とて味をいさ
ぬ乳汁とてふくめ廻
髪けつるたうを腰を
でふ信ちふくは
叔年やないけり
長孫夫人ふづり付
てでふ死とてくお



一家一人のこゝろを
いふゆゑが嫁ま人の叔
年の恩と報せし今
死せんゆゆ多し
孫づきもよめま人の孝
とまゝるものちを
あやうとめ
るの古今まれ
ふかこれとめ
るに孝の徳天
小威厳して子孫
とるゆきま
やみ栄へちと





○揚香深山逢白額努力搏腥風父子俱無恙脱身纔甲中

揚香父より子に云ふ所のふむつ虎ふりよりとらまふことなり
昔とあるいふぞふ乳くらんとて揚香如雅ぞろふりみかまれ
余より一より人幸やかなし虎と退人とそれどもそれま
いりてかたがひがけきま天と祥しこれけやも揚香が金
らふり父とたけ玉のきやまらさしとふりしてかきいり
々をききそのいづの切らうとくどあひた今まをふけり
とびうらんとて虎ふりまら尾とれてきりぞれたる父また虎の
種とみれつがろく家ふりりはるとりその係ふ香がやき
孝のころふりゆえそれたけとゆりとりとるふ人下り



董永 董父債方兄 天姫泊上迎 織船債錢主 孝感盡知名

董永といふは、時母ふもれ家に入て事ふ人にて、耕作を
とりて日々地つりなり。父老てあしもまされば、車をつりて父
の世田のあぜみまで中るひろく、孩ふ父とて、葬れの時も、
料定するべしとせむ。己が身よりて十世の計、彌々といひ
夫より、銚子の元、乃ちそとりの、美女を董永が妻に、
のこけり。と辭すれ、たすけがて、銚子のもとへ、ありて、
の内ふ、情式、万足、かりて、まのうへ、十世まで、
夫より、婦人、天上へ、失なり、毛て、なり、娘と、
孝子と、いふ、むかし、



貪心思供給埋兒願母存黃金天所賜光彩照寒門

郭巨の河南といふ所の人なりきりてまづいふところせどもよく母子孝なりを
つてり三子ありたる子と姑が郭巨が母なりとの孫なりとてやめつてしそ
食也といけり人傳ふ郭巨が母なりといふ中母の念いふをふかきと思ひ
其内て孫ふ分ちてゐるがごとしものとて思ひ人お見えぬ子のあはれと
夫婦が子ありて母父はとてけしきと埋め捨るふかきとて思ひ
わたり郭巨宜とやりえん黄金一釜とほりてより郭巨おける孫をたれを
寢にけりて孫のこゝまうは地郭巨おける郭て至孝とて譽れる母子と埋る
ふ及び至孝なりを念ふのまに週中とくと母子孝なりといふ孫もそく
やにせいといふて郭巨をむねに父お母を孝なりとたてまつらるゝとて

○朱壽昌

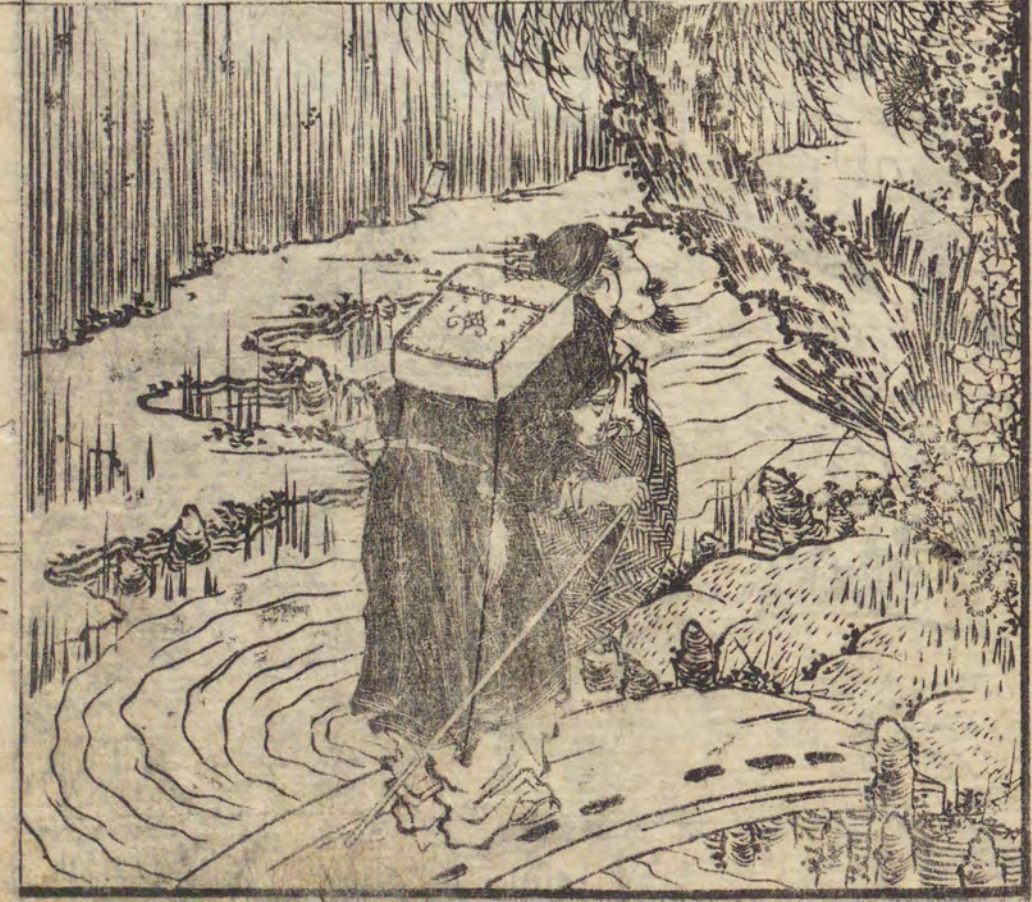
七歳生離母參商五十年

一朝相見面喜氣動皇天

朱壽昌字子休。天長れ世の人なり。七歳の時父雇の者となり。時母居る母と去退せり。夫より又十年を母と知りざる。母は父のその後復縁と解て母とぬねお出たり。母ふいに三たびへらと家より血と出て経と去せしとて天乃お行り。母ふいにとせむれとふく



かなきなりたる其んじの切なりや天の冥助けて玉のころろと母ふ逸たり。母のじに余より一歩ふ洞と流脱るの恨はるる孝心とわの復蔵す。及い孝参す。て元のどく宵縁とけ玉なり。母も引たり。孝まに孫るるく。心用々親子のる。惟もくこそあに。そのり。おもつとめて。あ。孝なり。と時の人。あぶる。と。け



○ 刺子

老親思鹿乳 身掛褐毛衣

若不高声語 山中帶矢飯

刺子の國の人なり父母に

おきてお眠てつらういふ

いふふ麻の乳で用いばと

いふ刺子えう孝行ふた

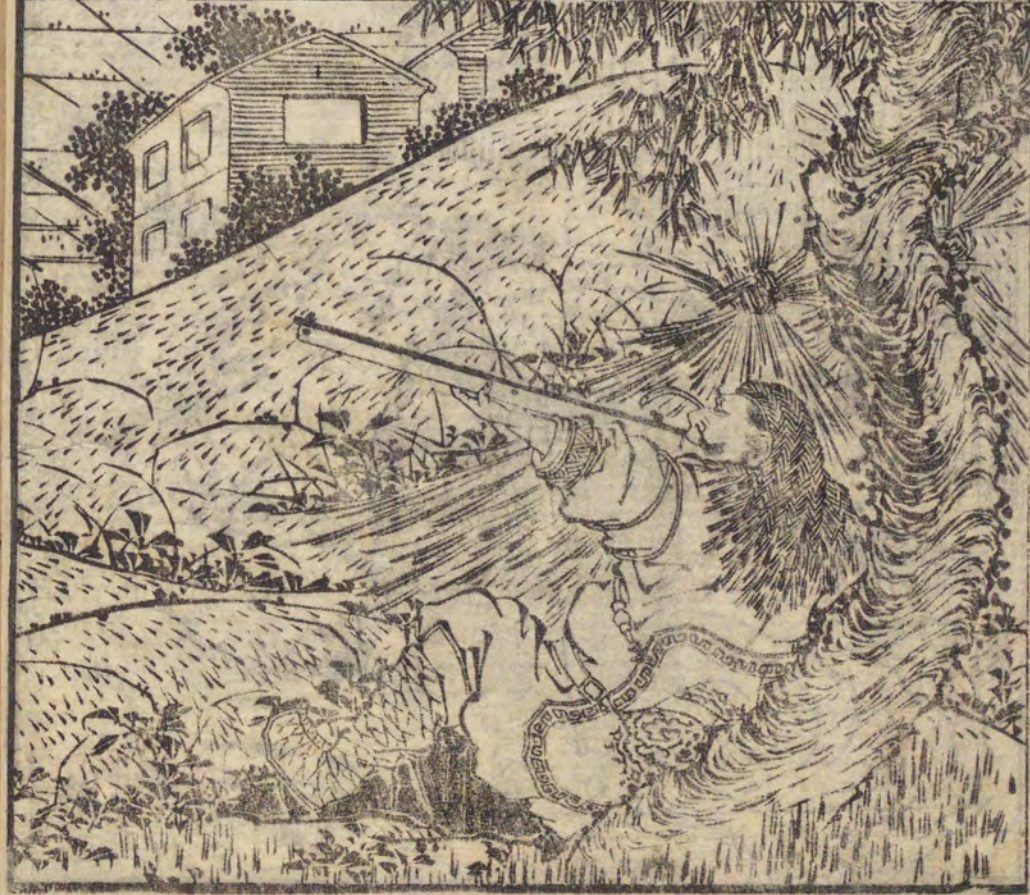
也父母の星とてつらう麻の

中皮も求むとくきふや

つげあやうふ麻のむくじ

中給れは麻の乳けとえ

とけうるお精所きうて



鉄炮をわくいうふとる

也刺子こてけや結玉へ

猛者これいまの麻は

らび。足とふあるがや

うのことうりと物語何

とど親の星とてつらう

おいとあやうな

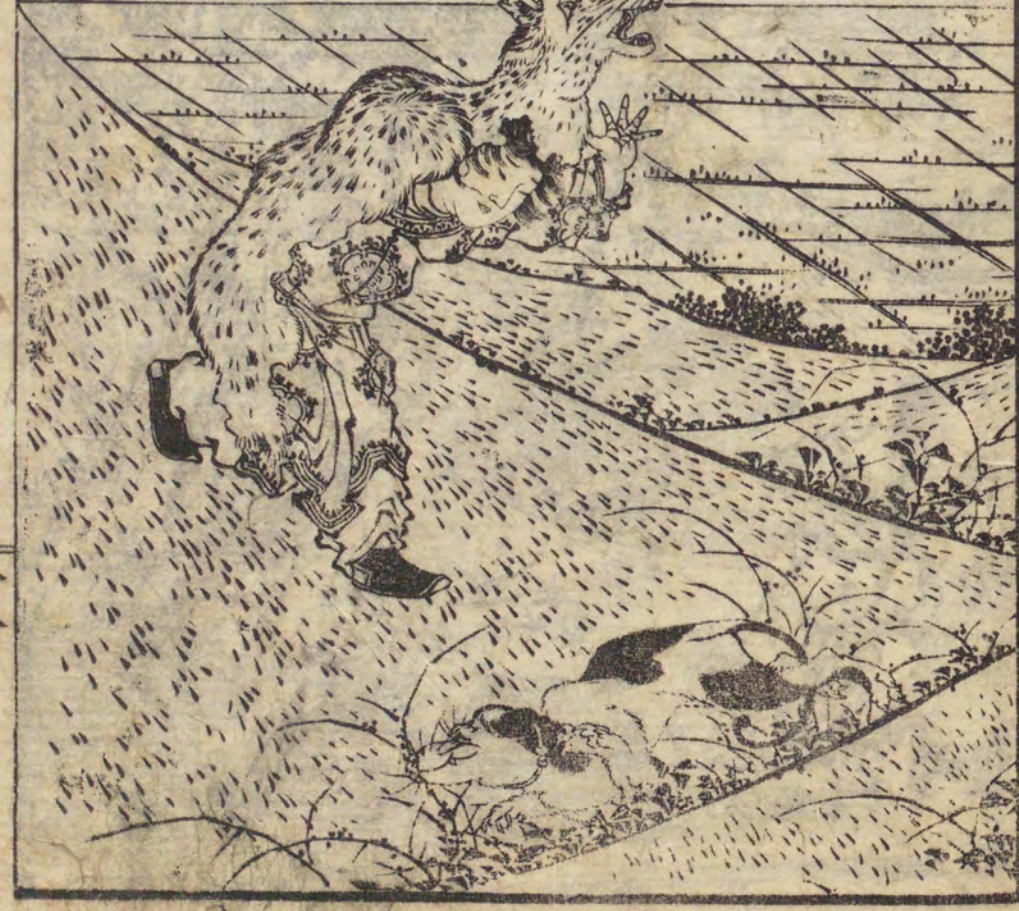
いの志とえううとふ

麻の乳とていふおあ

て父母おあえうとふ

せんくうとふ。まとい

孝行ふとてけり



○ 蔡 順

黒根奉親聞啼飢淚滿衣

赤眉知孝順牛米贈君飯

蔡順は除南と云ふ所住り
又ふいふれて母と申す
その母まきうとてふれ
乱と世に天下とふれ
きんとうりたるゆ食ふ
ふこふし母と申す
なりそくなく粟の實
と拾いとりて食ふのたよ
まじたる世の中れき
より人々救ふなりとて



してせいとるものゝぬす
人あまの蔡順と追来り
順が粟の實の志ゆとらと
志ゆとらとてむらへる
てふゆとるゆとたづね
なれば志ゆとるる母の
食ふあふなりと答へ
るる盗人といふて米二斗
半の足きつて入なり
解とれたむいふあふれ
おとり母とむとく食ふ
あつと食ふも米半たり
つねり二期のる腹ふ満
まどと考考のる一と

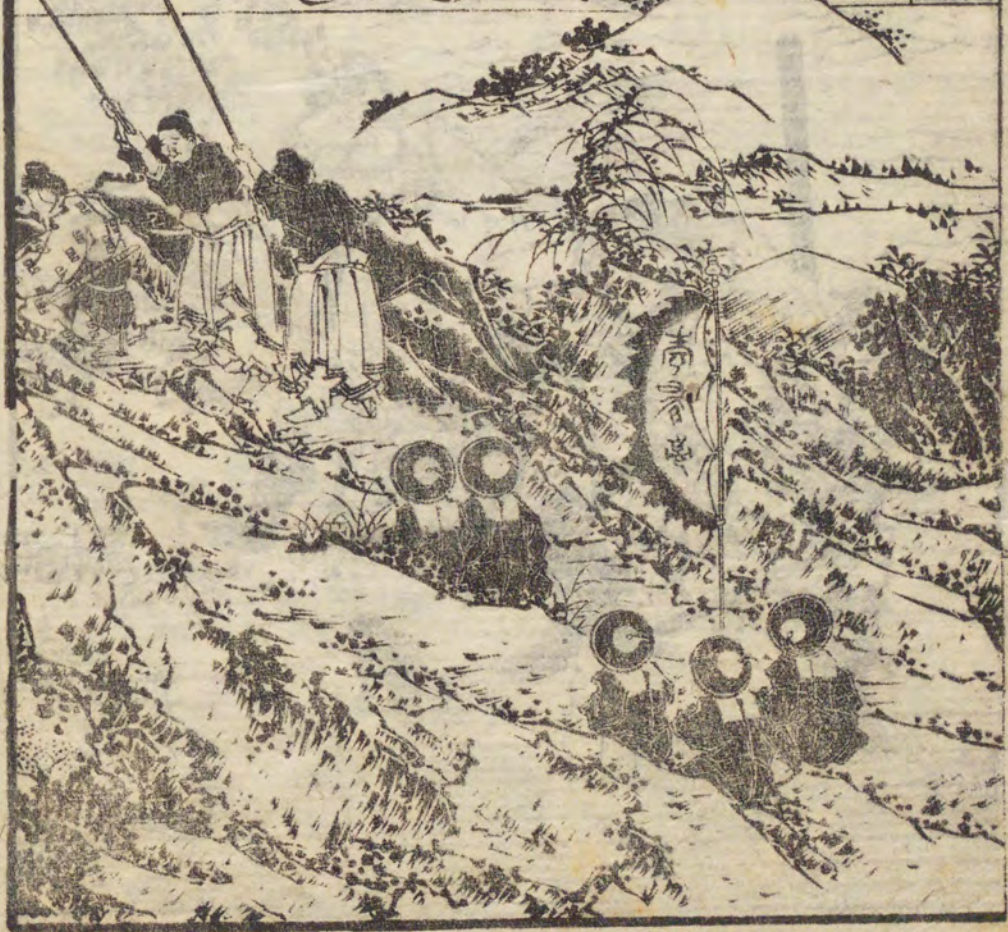


庚ゆ
黔きん
婁ろう

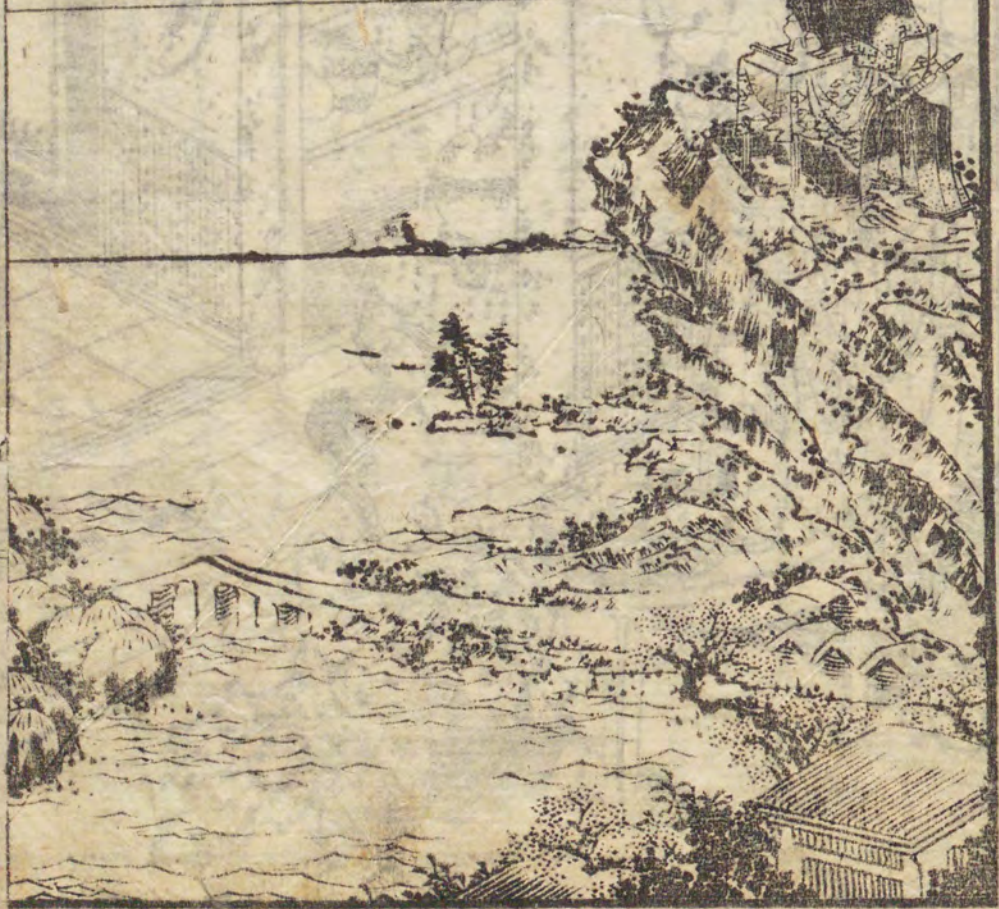
到縣未旬日 椿庭捕疾深

願將身代死
北望故園心

庚辰妻の病の時之令
 きてあてんば悲清なり
 今麻痺と云ふの病
 と云ふ病あり麻痺幾い
 り未十日もあらずる内
 傷小胸さびける程父の
 中を移すにあは寢て様
 てよりなによりて父病ふ
 予よりいふほどなき
 け医てまねき其病
 作て又せよと云ふなり



病人の大役となあ
 て耳く若くは病い患
 とふ事なれとありと
 て父の大役とあむるふ
 耳く若くは病い患
 どもき。医師の言葉ふ
 ね遠とれ。その死ふつん
 思ふ。やうげなかな
 亦戒しそ。晋とたれ
 小本。星。成。まほりち
 我余とたは。ま。い。乃
 ち。は。と。り。き。か。し。も。せ
 ふ。ま。と。い。お。り。る。不
 どの。そ。う。あ。ん。ふ。り。さ
 ら。れ。な。り。な。ふ



異國の陸續とつゝとの六歳のとき著述といふ人のいへりしお著述
 陸續がためお揚の菓子といひてかゝる陸續これと二つあり
 てめであふかくこち用事かゝるを降るお著述おれどもは
 とてにともより波揚とおじられお著述これと見て陸續等々初雅お
 似合ば中きさういふるとやかれ續那と赤らけたり又も
 お菓なるれが家づくほてもおある人と益なり述べれときて
 いまといけるお心を期考心とちゆくと古今まれなりと譽め
 りしがさてこそ成長の後天下におびるお孝なり者とぞなりたる

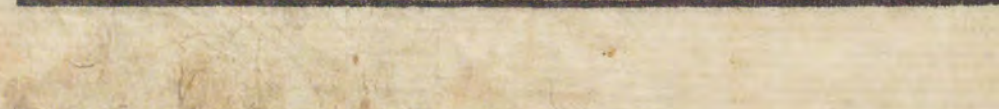


○張孝 偶值綠林兒代烹云瘦肥人皆在兄弟張氏古今稀

○張禮 張孝張禮の兄弟天下大小きんとうりたる本の実と拾ひ

八十ふりきる母と妻ふ食ふとせり弟の張禮本の実と拾ひおれこころを
 むしりの飢つるる月の来り神と殺して喰ふといふ張禮大ふぢぢと
 しるおふむしりの孝母あて今日来合といふ張禮本の実と拾ふとせり
 まりむつ母ふまつてて後うおふとせり 坊来とるるるるるるるるる
 来り一族までもこころいふとせり母ふあふと進めて後彼とせり
 むしりの孝これとせりより来りておふより把られおれと殺てか
 助け玉といふ弟へ坊来とせりおれと殺し玉と争て止りたれはるるるる
 孝子と殺せりとはと米石屋とせりといふと孝の玉とせり

100





山谷采朝の侍人なり。今ふありて詩家の司といへる人にて、平破の才なる人。
家におわまいの人をけつし、まもりうられども、自ら母の大小便のうつとゝあは
えあつてけしきあるべし。いづれそとあらひ清めて母おあるが恥ぢすく
つてせざるむじされば、こころと知るべきならん。限ると之制のごとく
されば、其外のゆゆしきことしてはなからず。孝義天下に昭々より見ゆるべし。
くしく下やあれど、史記などの著もふびんと加へつゝ、この男女とめどもふりたる
とぞ。いづれ大衆の心より代へおありてを考りぬ。あやしくいふは、けしきと
いづれお世に孝とあり中して、世よりいづれ貴賤ともならずどのごのな
きと。孝中の孝として、眼中の睡するれをみろ。その見えなきは



七中孝圖會

輯者

浪華長暮里

南里亭其樂

補輯

畫土

東都

葛飾戴斗

葛飾戴斗

彫工

山崎庄九郎刀



文政五年壬午正月發兌

浪華

河内屋	太助
河内屋	長兵衛
塩屋	忠兵衛
加賀屋	善藏
綿屋	又七
加賀屋	吉兵衛

